

特集Ⅱ地域で考える「人と農地」の将来設計図

# 人・農地プラン

「人と農地」の問題は

これからの日本の「農」を考えるうえで避けて通れない問題です。

多くの地域で農業の将来を心配する声が出ています。

この問題を解決するために、地域で話し合ってみましょう。

## 浮き彫りになった地域農業の課題

平成30年11月、越生町農業関係者150人を対象に実施した「人・農地プランアンケート」では、112人の方から回答をいただき、全員が「後継者不足が深刻な問題となっている」、「若い農業者が減少し、農業者の高齢化が進む」、「5〜10年後、地域農業に問題が生じている」のいずれかの回答をするという結果になり、町内の農業者が抱えている課題が浮き彫りになりました。

このままでは、近い将来、農業の衰退が急激に進むことが予想されます。農業の衰退は、遊休農地の増加や、町の特産品である梅やゆずなどの農作物の生産量の低下といった問題を引き起こし、町の活気の低下にもつながります。これは、農業者だけでなく、町全体で解決しなければならぬ大きな問題なのです。

## 人・農地プランを更新しました

こうした問題に対応していくため、町では、平成25年度に越生町「人・農地プラン」を作成し、平成30年度に更新をしました。地域の農業を持続的に発展させていくに

## 人・農地プランとは？

人・農地プランとは、近年、若者の農業離れが進む中、現在の農業を5年・10年後の未来に繋げていくために日本全体で進めている将来の設計図です。

このプランでは、①地域の中心となる個人・法人・集落営農についてまとめた「人・農地プラン」、②意欲ある農業者に農地を集めていく「農地の利用集積計画（工程表）」、③農地を提供する人たちの土地利用の現状についてまとめた「農地利用図」の3つの書類を作成し、これを基に人と農地を効率的につなぎ合わせ、5〜10年先まで見据えた地域農業の進め方を考えていくものです。

原案は、農家の意向調査や地域での話し合いに基づきそれぞれの市町村が作成し、農業関係機関や農業者などで構成する検討会を経て、正式に決定します。

は、農業の基盤である「人」と「農地」が確保されていることが前提となります。「人・農地プラン」とは、「農業の担い手がいない」、「耕作放棄地が多い」といった、地域農業の根本的な問題を解決しながら農業を発展させていくために、地域の住民同士で話し合い、5年後、10年後までに、「誰が」、「どこで」、「どのように」農業を進めるのかをまとめるものです。

### 課題解決に大切な事

今、「人と農地」の課題を解決していくために大切な事は、農業に対する「夢」を持つことです。みなさんは、農業に対してどんな夢を抱いているでしょうか。一度地域で語り合ってみてください。そして、その「夢」を「現実」にするために農業を様々な角度から見つめて、あらゆる方法を考え、実行してみてください。一人では難しいことでも、町や地域の人同士で協力して、一つ一つ課題を解決すれば実現するかもしれません。そして、その行動が農業を盛り上げていくことにも繋がるのです。

人と農地の問題は、一朝一夕で解決することはありません。できることから始めて、粘り強く、前向きに取り組んでいきましょう。